

男女平等な社会を実現するために
中札内中学校一年 檜原 ほの
私はこれまで、戦前の時代に働く女性をモ
デルとしたドラマをいくつか見てきました。
中でも日本初の女性弁護士を描いた作品の中
に出てくる「本気で地獄を見る覚悟はあるの
？」というセリフが今でも心に残っています。
最初は「地獄」という意味がよく分からなか
ったのですが、物語が進むうちに女性が社会
に出て働くことの難しさを表した言葉だとわ
かりました。私は街中で働いている人の性別
を意識したことがなかったのですが、時代による
考え方の違いに驚きました。
一九八五年に男女雇用機会均等法が制定さ
れました。男女が平等に働ける環境を整える
ことを目的とした法律です。私が見てきたド
ラマの中では、女性だからと仕事を頼まれな
かったり、顔や年齢を採用基準にされていた
りと、厳しい状況で働いている女性がいまし

た。もっと早くにこの法律が制定されていた
ら、この女性たちの立場も変わっていたかも
しれません。
先程も述べた通り、私がドラマの中の女性
の待遇に違和感を持ったのは、街中で働いて
いる人を性別で判断したことがなかったから
です。裏を返せば、現代は沢山の女性が活躍
しているという事です。私は、このような
女性の活躍の場が壊れないままできてほしい
と思います。では、現状を安定させ、より
良くしていくにはどうすればよいのでしょうか。
まず私は、女だから男だからという言葉を
なくし、男性の育休制度がもっと広まればい
いと思っています。育休制度は、二〇一〇年
に男性も取得の対象となりました。男性の取
得率は二〇一七年には5・14%ですが、二
〇二二年の法改正により、翌年には30・1
%まで上昇しました。それでもまだ低いのは、
職場の環境の中で取りづらいく感じている男

性 が多いからかもしれません。ですが少しで
も 多く普及することによって男女ともに仕事
や 育児に参加でき、女性の働きやすさにも変
化があるのではと考えました。また、男だか
ら 女だからという言葉をなくすことによつて
性 別による差別も減るのではないかと考えま
す。
私には将来の夢があります。戦前はそんな
夢も叶えづらい時代でした。性別によつて将
来の可能性が減ってしまう社会には戻らない
で ほしいと思つています。なので、国の法律
や 制度に関心を持ち、男女平等な社会を、将
来 私たちが作つていくことが大切ではな
い でしょうか。